

浅草流 落合葉節 卓 玄 双盤念仏口伝

双盤念仏は、元来、太鼓一、双盤鉦二枚を以って一組となし修業するものであるが、

当山に伝わる双盤念仏は、太鼓一、双盤鉦四枚（復双盤）を以って一組となるす。

本尊

太鼓
親

三番鉦

三の玉

二番鉦

五の玉

一番鉦

六の玉

四番鉦（じり鉦）

七の玉

- ① 念仏奉納 寺まで立派な大木の板で事前に打ち合わせ、相手を決め、太鼓・鉦の役に着座。（正座）
- ② 四番鉦 一同着座、準備完了を確認して、鉦のやや下方を軽く一打。（本意の手元）
- ③ 太鼓、手元を聞きて、手元を持った巴子を二番そろえて、太鼓の中心を軽くあきえて、深く一礼。
鉦の四名も太鼓に向ひせて、深く一礼。（始めの礼）
- ④ 十三鉦

太鼓、両巴子で、太鼓の轍をほきながら軽くはたくよつとあきえる。

未
鉦

太鼓の轍を半分すつかる。
ガラガラガラガラ

⑤

念仏

強く打つ

打ちは、響く
本鼓

印

ナーマーハマーハニモオーホオー アーハー ハニエー

ターマーハーハン アーハアーハイ ナーマアーハイ

太
鉦

モーホーマーハアーハイ アイケーハイ

ナウモーホーマーミーハイ ゲマー アーハー

太
鉦

ナウモーホーマーミーハイ ゲマー アーハー

太
鉦

太 錦 木 詠
 マー ハー ハアイ アンブラー イー ナー マー ハリ モドホー
 アーハイ ハア アーハイ ターハー ハンエー

⑥ 五連

念仏は太鼓の合図により錦一番より順次一人一人唱え、打ち方で起し錦。

ナンモー ホト

マーシー ケアーマアア ハー ハア

太 錦 木 ①
 ① 一番
 二三番

マーハー アハンエー ヴンナーハー ハーイ モオーフオホー ホ

太 錦 木
 二三番

マーハーイ ナアアーハイ

太 錦 木
 一番

マーネオ アーハイ タアア ハー ハア

太 錦 木
 二三四番

マーダー ハーイ

太 錦 木
 一番

マーネオ アーハイ ター ハー

太 錦 木
 二三四番

マーダー ハーイ

太 錦 木
 一番

マーネオ ホト

太 錦 木
 二三四番

マーダー ハーイ

太 錦 木
 一番

マーネオ ホト

太 錦 木
 二三四番

マーダー ハーイ

太 錦 木
 一番

マーネオ ハンエー

太 錦 木
 二三四番

マーダー ハーイ
 次に二番錦念仏を唱え、順次三番、四番唱える。太鼓は二番が終ると

太鼓
 嘆次風

フヘーの寝し

	太 鉦 エーを愛で エー	太 鉦 エーを愛で エー	太 鉦 エーを愛で エー	太 鉦 エーを愛で エー
ナ	ナ	ナ	ナ	ナ
マ	マ	マ	マ	マ
・ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
・タ	タ	タ	タ	タ
ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
・ス	ス	ス	ス	ス
ヘ	ヘ	ヘ	ヘ	ヘ
・エ	エ	エ	エ	エ

あさえり

フヘーの起し

	太 鉦 風石 エー	太 鉦 風石 エー	太 鉦 風石 エー	太 鉦 風石 エー
ナ	ナ	ナ	ナ	ナ
マ	マ	マ	マ	マ
・ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
・タ	タ	タ	タ	タ
ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
・ス	ス	ス	ス	ス
ヘ	ヘ	ヘ	ヘ	ヘ
・エ	エ	エ	エ	エ

風石に打つ

⑥ 三ツ 鉦

	鉦 太 鉦 金葉を噛み 金葉を噛み	太 鉦 太 鉦 金葉を噛み	鉦 太 鉦 金葉を噛み	太 鉦 太 鉦 金葉を噛み
・↑	↑→P	↑T→シリ	↑	↑
△P	○	△モウ	○	△モウ
△ス	○	△ハ	○	△ハ
▼	ヘ	ヘ	ヘ	ヘ
△T	○	△タ	○	△タ
△	タ	タ	タ	タ
▼	ハ	ハ	ハ	ハ
△	ヘ	ヘ	ヘ	ヘ
▼	タ	タ	タ	タ
△	ハ	ハ	ハ	ハ
▼	ヘ	ヘ	ヘ	ヘ
△	タ	タ	タ	タ
▼	ハ	ハ	ハ	ハ
△	ヘ	ヘ	ヘ	ヘ

4回

4回

アヘーの起し

鉢 人聲の エーを覺ゆ エー	本 人聲の エーを覺ゆ エー	鉢 大聲の エーを覺ゆ エー	太 前頭 エーを覺ゆ エー
-------------------------	-------------------------	-------------------------	------------------------

ナ	ナ	ナ	ナ
---	---	---	---

マ	マ	マ	マ
---	---	---	---

ハ	ハ	ハ	ハ
---	---	---	---

タ	タ	タ	タ
---	---	---	---

ハ	ハ	ハ	ハ
---	---	---	---

ア	ア	ア	ア
---	---	---	---

↑	↑	↑	↑
---	---	---	---

エ	エ	エ	エ
---	---	---	---

4回

ウヘーの響く

① ワツ鉢

鉢 大聲の エーを覺ゆ エー	太 人聲の エーを覺ゆ エー	鉢 太聲の エーを覺ゆ エー	太 人聲の エーを覺ゆ エー
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

ナ	ナ	ナ	ナ
---	---	---	---

マ	マ	マ	マ
---	---	---	---

ハ	ハ	ハ	ハ
---	---	---	---

タ	タ	タ	タ
---	---	---	---

ハ	ハ	ハ	ハ
---	---	---	---

ウ	ウ	ウ	ウ
---	---	---	---

↑	↑	↑	↑
---	---	---	---

エ	エ	エ	エ
---	---	---	---

おさまる

4回

ウヘーの起し

鉢 太聲の エーを覺ゆ エー	太 人聲の エーを覺ゆ エー	鉢 太聲の エーを覺ゆ エー	太 人聲の エーを覺ゆ エー
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

ナ	ナ	ナ	ナ
---	---	---	---

マ	マ	マ	マ
---	---	---	---

ハ	ハ	ハ	ハ
---	---	---	---

タ	タ	タ	タ
---	---	---	---

ハ	ハ	ハ	ハ
---	---	---	---

ウ	ウ	ウ	ウ
---	---	---	---

↑	↑	↑	↑
---	---	---	---

エ	エ	エ	エ
---	---	---	---

4回

⑦せめ込み

金木水火土

（本筋）連度で舟を立、太鼓か櫓打ちを行なつても鉾足は叶ひなかつた。
「七の天」の標準に入り、
おぢやの次第に鉾足と風じ「キサミ」に入り、五度調子を述べて
「キサミ」がくずれるのよつて注意。

アヘーの寝起き

大正九

玉の玉通り

鉢 太

鉢 二

鉢 三

鉢 四

鉢 五

鉢 六

鉢 七

鉢 八

鉢 九

鉢 十

鉢 十一

鉢 十二

鉢 十三

鉢 十四

鉢 十五

鉢 十六

鉢 十七

鉢 十八

鉢 十九

鉢 二十

鉢 二十一

鉢 二十二

鉢 二十三

鉢 二十四

鉢 二十五

鉢 二十六

鉢 二十七

鉢 二十八

鉢 二十九

鉢 三十

鉢 三十一

鉢 三十二

鉢 三十三

鉢 三十四

鉢 三十五

玉の玉通り

鉢 太

鉢 二

鉢 三

鉢 四

鉢 五

鉢 六

鉢 七

鉢 八

鉢 九

鉢 十

鉢 十一

鉢 十二

鉢 十三

鉢 十四

鉢 十五

鉢 十六

鉢 十七

鉢 十八

鉢 十九

鉢 二十

鉢 二十一

鉢 二十二

鉢 二十三

鉢 二十四

鉢 二十五

鉢 二十六

鉢 二十七

鉢 二十八

鉢 二十九

鉢 三十

鉢 三十一

鉢 三十二

鉢 三十三

鉢 三十四

鉢 三十五

玉の玉通り

鉢 太

鉢 二

鉢 三

鉢 四

鉢 五

鉢 六

鉢 七

鉢 八

鉢 九

鉢 十

鉢 十一

鉢 十二

鉢 十三

鉢 十四

鉢 十五

鉢 十六

鉢 十七

鉢 十八

鉢 十九

鉢 二十

鉢 二十一

鉢 二十二

鉢 二十三

鉢 二十四

鉢 二十五

鉢 二十六

鉢 二十七

鉢 二十八

鉢 二十九

鉢 三十

鉢 三十一

鉢 三十二

鉢 三十三

鉢 三十四

鉢 三十五

玉の玉通り

鉢 太

鉢 二

鉢 三

鉢 四

鉢 五

鉢 六

鉢 七

鉢 八

鉢 九

鉢 十

鉢 十一

鉢 十二

鉢 十三

鉢 十四

鉢 十五

鉢 十六

鉢 十七

鉢 十八

鉢 十九

鉢 二十

鉢 二十一

鉢 二十二

鉢 二十三

鉢 二十四

鉢 二十五

鉢 二十六

鉢 二十七

鉢 二十八

鉢 二十九

鉢 三十

鉢 三十一

鉢 三十二

鉢 三十三

鉢 三十四

鉢 三十五

玉の玉通り

鉢 太

鉢 二

鉢 三

鉢 四

鉢 五

鉢 六

鉢 七

鉢 八

鉢 九

鉢 十

鉢 十一

鉢 十二

鉢 十三

鉢 十四

鉢 十五

鉢 十六

鉢 十七

鉢 十八

鉢 十九

鉢 二十

鉢 二十一

鉢 二十二

鉢 二十三

鉢 二十四

鉢 二十五

鉢 二十六

鉢 二十七

鉢 二十八

鉢 二十九

鉢 三十

鉢 三十一

鉢 三十二

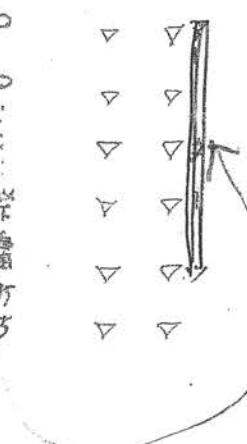
鉢 三十三

鉢 三十四

鉢 三十五

鉢 三十六

自唐舞盤於るにしたがい、打力を弱め太鼓の下方を打つ(三番鼓の玉を通してもさう合図)



以下「キザシ」

2回

4回

卷之三

玉の巻之
一

鉦三齋

五の通し

鉢三景

卷一

五
金
三
星

三の玉 層ウ
金 銀 太
二層 三層

以下「キサマ」
以下「キサマ」

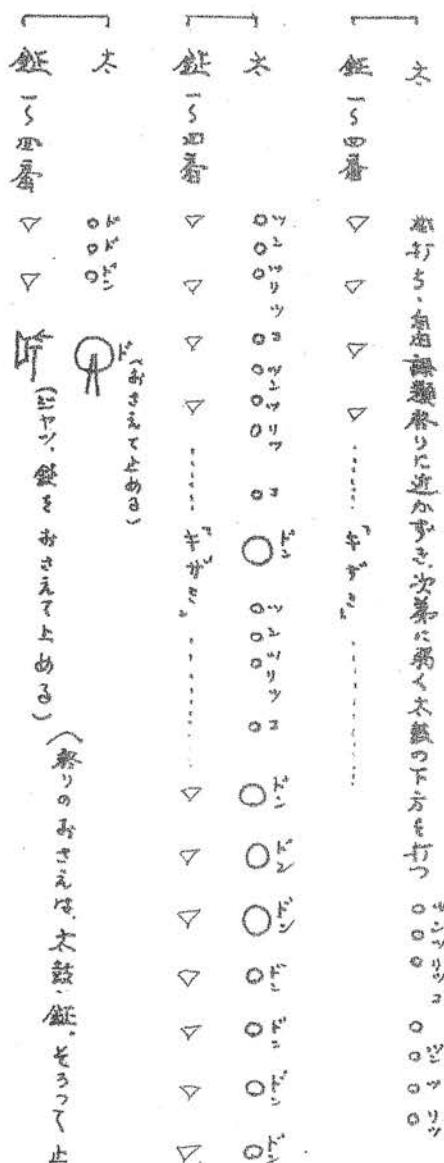
毛を過れるにしたがい、お力を認め大鼓の下方におり（三番鉦の玉を渡してもらう合図）

卷之二

卷之三

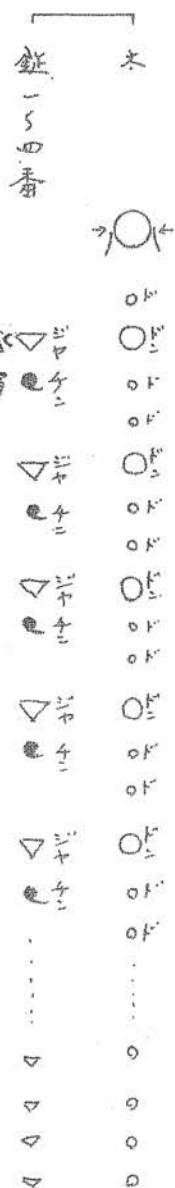
都打ち、左脚舞踊振りた近かずき次第に弱々太鼓の下方を打つ

(都打の入る合図)
ゼンタラツコ ジツリツ
○○○○○○○○○○○○



(ヤヤヤ、鉦をあさえて上める) (祭りのあさえは、太鼓・鉦、そろって止める)

⑨ 文山越し



⑩ 金電タツ

